



日本大学第二中学校・高等学校演劇部 平成23年度 文化祭公演作品

(中学・高校合同作品)

怪鳥イツマデンが襲う

作・演出 宇田川豪大 編曲 滝井麻里

9月18日(日)10:50開演予定
会場★本校図書館棟3階視聴覚室

(高校部作品)



作・演出 宇田川豪大

音楽 滝口亮介

9月18日(日)12:10開演予定
会場★本校図書館棟3階視聴覚室



東日本大震災と名付けられた天変地異により、多くの命が喪われた。
何よりもまず、ここに謹んで、お悔やみ申し上げます。

僕らの住む街も大きく震えた。
交通機関は麻痺し、奇妙に規律正しく歩いて帰宅する人の列が道を塞いだ。
僕もその日は、職場に泊まることになり、またいつ襲ってくるかわからない地面の震えに、眠れない夜を明かした。
津波、火事、原発事故、計画停電……
逃げ切れない現実が押し寄せ、社会はパニックになった。
新聞を始め、あらゆるメディアはどこもかしこも同じニュースを垂れ流す。
これほどの大混乱で、たくさんの人が亡くなったというのに、
別の場所では人が殺され、自殺者が相次ぎ、不慮の事故で命を落とす人もいた。

不条理、を感じた。

僕は今まで、非常にこちんまりとした芝居作りをしてきた。
心のほんの片隅で、ほとんど気づかれないような出来事をテーマにして。
だから、いわゆる時代を切り取ったような作品は、取り上げてこなかったし、正直興味もなかった。
時代は必ず色褪せていくものだからだ。そして、忘れられる。
でも、今回は、書かなくてはいけない、と思った。
立派な「心の問題」として、色褪せず、忘れてはならない出来事として、書かなくてはいけないと。
この芝居が果たして無事に上演出来るかどうかの保証はない。
それでも、僕はこの仕事を、全身全霊を賭けて遂行したい。

はくめんこんもうきゅうび やかん
「白面金毛九尾の狐」＝野干を、

演劇部全員の力を総結集して、退治しなければならない。

ぼくはいきもの 作詞 宇田川豪大 作曲 滝口 亮介

あの眼差しが 時々愛しくて それからすぐに 悲しくなる
温もりが消えた日 空はひどく高くて それでもとても 綺麗だった

やっと気がついたんだ 時は過ぎてゆくもの
言葉は増えてゆくもの 周りの景色は変わってゆくもの
やっと気がついたんだ ぼくはいきもの

ぼくは前を向く 果てしない前を向く
途方に暮れそうな心を抱いて
ぼくは前を向く それでも前を向く
しわくちゃになった記憶を抱いて

ぼくは前を向く 果てしない前を向く
こぼれ出しそうな優しさを抱いて
ぼくは前を向く それでも前を向く
抱き締められた思い出を抱いて